

# 平成30年度 佐世保市早岐地域包括支援センター事業計画

## 1. 地域包括支援センター事業計画について

佐世保市早岐地域包括支援センターは、地域包括支援センター運営事業を実施するにあたり、市が示す仕様書、事業実施マニュアル、運営方針を遵守するとともに、本事業計画の内容を踏まえ、事業を推進します。

## 2. 地域の現状と課題

担当地区	現状と課題
宮・広田地区	宮地区は長年住んでいる方が多く高齢化率が高い中、地域住民のつながりが深く、助け合いの意識も高い地域。自治協議会を中心とした地域活動、老人クラブやサロン活動などが熱心に行われている。交通の利便性は他と比較して高くない地区も多く買物や通院など日常生活上不便な面もみられる。 広田地区はショッピングモールもあり、買物など日常生活を送る上で利便性が高い地域。新興住宅が建ち若い世代が多いことから、昔ながらの関係が若干薄い面がみられることもあり、地域活動などで交流をもち世代間で支えあうまちづくりを推進されている。
三川内地区	高齢化率が高い中において地域住民のつながりが深く地域行事も盛んな地域。民生委員や地域の方が中心となり、高齢者の方の閉じこもり防止や介護予防を目的としたサロン活動が熱心に行われている。自治協議会が中心となり認知症をテーマにした映画を地区公民館で上映されるなど地域での助け合いに対する意識も高い。
針尾・江上地区	針尾地区は高齢化率が高い中、老人クラブが減少傾向にあることから、民生委員の方などが中心となり新たにサロンを立ち上げられるなど、身近な場所で交流できる集いの場を推進されている。また、自治協議会を中心に高齢者の見守りなど支えあう地域づくりへの意識も高い。 江上地区は自治協議会を中心に地域行事や食事会、老人クラブ活動などが熱心に行われている。地域住民による身近な場所への通いの場づくりや支え合いに取り組まれる中、公民館までの距離が遠い高齢者に対する移動手段などの問題もみられる。
早岐地区	日常生活を送る上で交通の便が良く、スーパーや病院なども多く社会資源が充足している地域。公民館活動や身近な場所での住民主体の介護予防の取り組みも盛んに行われている。公営住宅に長年住む高齢者夫婦や高齢者のみの世帯も多く、地域で孤立している方もみられることもあり民生委員の方による見守活動が熱心行われている。

### 3. 独自の取り組み事項

	業務	取り組み内容
	地域での介護予防の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブや自治会など積極的に地域に出向き、介護予防講話などを通して、高齢者をはじめとしたあらゆる世代の方が介護予防や健康増進に関する意識を高め、セルフケアや地域活動において自発的・継続的に介護予防に取り組んでいただけるよう支援を行います。</li> <li>・継続して介護予防に取り組める環境の構築に向け、公民館など自宅から歩いていけるような身近な場所での「いきいき百歳体操」や「サロン活動」を普及啓発します。その際、地域の事業所やリハビリテーション専門職の方などと連携をとり、介護予防効果の説明や実際に体験していただく機会を多くもてるよう取り組みます。</li> <li>・介護予防をはじめ、生きがいや仲間づくりなどが期待できる身近な場所での住民主体の通いの場などが、高齢者の方に対する日常生活に必要な支援や見守りなど地域の支え合い活動につながるよう取り組みます。</li> <li>・地域の生活支援体制整備に向け、民生委員や自治会、ボランティアなど世代間を通じた方や、生活支援コーディネーターなどと連携をとり地域資源やインフォーマルサービスの把握と構築に努めます。</li> </ul>
包括的支援事業	介護予防ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス利用を希望される相談に対しては、家庭訪問などを通して心身状況や家屋などの生活状況を把握し適切な支援につなげます。ケアプラン作成にあたってはアセスメントを実施し、自助努力を基本としながら、地域活動やインフォーマルサービスを活用し自立支援の視点を持ったケアマネジメントを実践します。</li> <li>・医療と介護の支援が必要となる高齢者の方が、出来る限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう、医療機関・訪問看護・介護事業所など多職種連携による支援を行います。</li> <li>・地域ケア会議を通して地域や関係機関の方との更なる連携強化を図るとともに、事例報告による成功体験の共有化などにより地域課題の把握と解決に取り組みます。また、個別ケースにおいてはご本人の有する能力の維持・向上を目指す自立支援を重視したケアプラン作成に向け理学療法士など専門多職種と協働で検討を行います。</li> <li>・地域のケアマネジャーや介護事業所との意見交換会や事例検討会を通して更なる連携強化や全体的なスキルアップを図ります。また、ケアマネジャー業務に関連する情報提供や困難ケースへの助言など必要に応じた支援を行います。</li> </ul>
	認知症対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症高齢者の方への見守り体制づくりに向け、小・中学生などの若い世代、自治協議会などの地域組織、地域で関わる人が多いスーパー・金融機関の職員の方などを中心に、認知症を正しく理解し地域で活動する「認知症サポーター」を普及啓発します。</li> <li>・認知症のために行方不明になる恐れのある高齢者の方に対しては、民生委員の方や警察署などとの情報共有とともに、万一行方不明になった場合の早期発見が期待できる認知症高齢者見守り事前登録制度を積極的に活用します。また、定期的なモニタリングにより地域の方などと連携を図り見守りなど必要な支援を行います。</li> <li>・認知症になっても安心して生活を送れる地域づくりに向け、認知症と思われる方への声の掛け方や対応の仕方などを地域の皆さんに学んでいただけるような「認知症高齢者徘徊検索模擬訓練」の実施を検討します。</li> <li>・認知症高齢者とそのご家族が地域や専門職の方と気軽に交流ができ、情報交換や負担軽減の効果が見込まれる「認知症カフェ」の開設や運用の支援に向け、事業所やボランティアグループへの協力を働きかけながら地域の実情に応じた支援に取り組みます。</li> </ul>

# 平成30年度 佐世保市早岐地域包括支援センター活動報告書

## ○重点項目への取り組み内容

### 1. 介護予防ケアマネジメント

#### (1) 地域ケア個別会議

「自立支援」を目的とした「地域ケア個別会議」において、高齢者の方々が、運動機能などの改善だけではなく、生きがいをもち、意欲的に日常生活が送れるよう、ご本人やご家族が出来ることなどの強みを生かした支援内容を検討しています。11ケースにおける専門職の方からの助言など多角的な視点での検討を通じて、ケアマネジメントスキルの向上が図れています。今後は、個別ケースの検討を通じた地域課題の抽出および解決につなげていきたいと考えます。

#### 【地域ケア個別会議での助言内容（抜粋）】

「廃用性の筋力低下を防ぐため、状態に合わせてパワーリハを継続する。立ち上がり場所に台を置くなどして、動作確認しながら自宅で生活を送りやすい環境を整えていく。」（理学療法士）  
 「他の病院に行くときは、薬の飲み合わせが悪いことも考えられるため、お薬手帳など情報を持って受診する」（薬剤師）  
 「インスタントや惣菜は塩分過多の傾向があるため、調理の際に野菜を加えるなどして減塩するよう工夫する」（栄養士）  
 「口の渇きは唾液分泌量低下や糖尿病による影響も考えられるため、お口の体操や唾液腺マッサージをする」（歯科衛生士）



花高地域ケア会議

#### (2) 花高地域ケア会議

花高地区は公営住宅に長年住む高齢者世帯も多くみられることから、「誰もが住みやすい地域をめざして～今後の花高を話し合おう～」をテーマに「花高地域ケア会議」を2回に分けて開催しました。地域や関係機関の方など延べ122名に参加していただき、グループワークでの話し合いや、自主活動グループの代表者の方からの活動報告などをしていただきました。日頃の声掛けや見守り活動の必要性を感じているとのご意見も多くみられたことから、実現に向けて取り組んでいきたいと考えます。

#### (3) 地域ケアマネジャー等との連携

「早岐地域ケアマネ交流会」と「早岐地域主任ケアマネ交流会」を定期的に開催しています。グループワークでの事例検討や業務に関する情報共有などを行い、更なる連携強化とお互いのスキルアップを図っています。「地域ケア個別会議」の周知に向けては、地域のケアマネジャーをはじめ関係機関の方々向けの説明会を実施しています。また、9包括合同での「医療・介護連携勉強会・交流会」の開催により医療機関との更なる連携強化を図りました。

#### 【早岐地域ケアマネ交流会での事例検討内容】

- ① 精神疾患のある方への関わりについて
- ② 車の運転を諦めきれない方への関わりについて
- ③ 高齢者夫婦での生活でどのようにしたら在宅で看取れるか
- ④ 長崎県の地域包括ケアシステム評価シートについて
- ⑤ もう一度在宅で生活するために



いきいき百歳体操

## 2. 地域での介護予防の推進

#### (1) 「いきいき百歳体操」の普及・啓発

公民館など身近な場所での「いきいき百歳体操」の普及に向けて、老人クラブや自治会などに出向き、実演を交えながらの紹介を継続しています。早岐包括圏内では新たに22ヶ所で立ち上がり、延べ47ヶ所で実施されています。他のグループの活動に関心を持ち取り組みを始めたグループもあり波及効果も感じています。今後は、身近な場所での介護予防活動が、体力面や精神面での効果だけではなく、住民同士の支え合い活動に更につながるよう取り組んでいきたいと考えます。

#### (2) 自主活動グループの活性化

自主活動グループの継続した活動と活性化を目的として、「自主活動グループ交流会」を開催しました。サロン活動や百歳体操を実施されている29グループ101名の方に参加していただき、コグニサイズの実演や遊具の紹介などを行い、多くの方に興味をもっていただきました。事業所やボランティアの方などの協力調整なども含め、自主活動グループ参加者の意欲が高まり継続した活動となるよう支援を行っています。また、長崎県すこやか長寿財団に「高齢者地域貢献活動団体」として推薦した早岐地区の敷石会が「平成30年度長崎県高齢者いきいきフォーラム県民大会」において、日頃の活動が認められ見守り部門で表彰を受けられました。他の自主活動グループの刺激となり地域全体の活性化につながればと思います。



自主活動グループ交流会

#### (3) 地域支え合い推進会議（協議体）

針尾・江上地区の生活支援コーディネーターとの共催で「地域支え合い推進会議」を開催しました。針尾地区と江上地区を各3回に分けて、地域の現状や支え合いの地域づくりの必要性の説明、グループワークでの話し合いなどを行いました。すぐに実現できるご意見ばかりではありませんが、地域や関係機関の方と連携をとり引き続き取り組んでいきます。

#### 【江上・針尾地区支え合い推進会議でのご意見（抜粋）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>— 地域で暮らす中での困りごとや不安 —</li> <li>・公共交通機関の運行が少ないので将来が不安</li> <li>・ゴミステーションが自宅から遠い</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>— 地域にある社会資源を把握しよう —</li> <li>・公民館で行われている「百歳体操」「いきいきサロン」</li> <li>・町内会や老人クラブ ・コンビニエンスストア</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>— 地域に必要な社会資源は何か？ —</li> <li>・移動販売、スーパーからの送迎、乗り合いタクシー</li> <li>・電球交換やゴミ捨てなどのちょっとした生活支援</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>— 社会資源を開発する具体的な方法は？ —</li> <li>・サロンをしている公民館に移動販売に来てもらう</li> <li>・元気な高齢者の方がボランティアに登録する</li> </ul>



地域支え合い推進会議

## ○その他の取り組み

#### (1) 認知症に関する取り組み

認知症やご家族を地域で見守る「認知症サポーター」の普及啓発を継続しています。自治会や老人クラブのほか、地域のキャラバンメイトと連携した学生向けなど、6回の講座で延べ138人のサポーター養成に関わり、福祉活動プラザからは感謝状をいただきました。また、認知症のために行方不明になるおそれのある高齢者の方を対象にした「佐世保市認知症高齢者見守り支援登録」を積極的に活用し見守りネットワークの構築に努めています。

#### (2) 地域に出向いた活動

消費者被害を未然に防ぐ地域づくりに向けて、早岐警察署とも連携をとりながら、老人クラブや地域の集会などに出向き、被害状況や手口などの講話、寸劇などを行っています。その他、老人クラブや小学校などに出向き、介護予防に関することをはじめ、介護保険制度、地域包括支援センター業務の紹介などを行っています。早岐地区公民館まつりでは早岐地区自治協議会 長寿部会と連携し、昔使用していた道具などを展示する「昭和レトロ展」に関わりました。



針尾公民館まつり  
(消費者被害防止の寸劇)



早岐地区公民館まつり  
(昭和レトロ展)

# 平成30年度 佐世保市日宇地域包括支援センター事業計画

## 1. 地域包括支援センター事業計画について

佐世保市日宇地域包括支援センターは、地域包括支援センター運営事業を実施するにあたり、市が示す仕様書、事業実施マニュアル、運営方針を遵守するとともに、本事業計画の内容を踏まえ、事業を推進します。

## 2. 地域の現状と課題

担当地区	現状と課題
日宇地区	<p>【大和町】西大和：福石小学校区にて日宇圏域との交わりが少ない。新しい地区公民館があるが、坂道が高齢者にとっては妨げとなっており公民館活動への参加者は限られている。民生委員が中心となり介護予防の取組みを始められている。北大和：民生委員、自治会も協力して見守るネットワークができています。公民館活動も盛んで、自治会会報を作成し町内活動の周知を図っている。地域にあるGH施設も行事や活動に参加し合い、良い関係が保てている。東大和：民生委員中心にサロン活動を取り組み継続できてはいるが、月1回の開催頻度は増えておらず自治会全体の活動には至っていない。</p> <p>【白岳町】新興住宅地や大型スーパー近辺にアパートが多い。町内会は未加入で移り住む若い世代も多い。概ね平地でバス通りから離れていても買物しやすい商業施設が多い。1組は老人会がなく自治会としての取組みは弱い。2組では自治会、老人会、民生委員で連携し見守りネットワークを確立、公民館活動も盛んで浸透している。百歳体操は週1回継続。30年度は公民館建替えの為、その間活動縮小にならないよう留意する。</p> <p>【沖新町】高専の敷地が広く民家が少なく。近辺には大型スーパーが多い。</p> <p>【日宇町】黒髪町同様に広範囲で高低差もあり3組に分かれている。一部は大塔小学校区になっている。駅近くの商店街は寂れて他の店も少ない。民生委員が中心となり高齢者の見守りやサロン活動を行っている。1・2組、3組、日宇が丘それぞれの自治会で百歳体操を取り入れ活動中。高台に住まれる方々の移動手段の確保が課題となっている。</p>
黒髪地区	<p>【黒髪町】市内一広い町であり、人口ほぼ8,500人。烏帽子岳ふもとは昔からの地元住民だが、40年程経った住宅地では、その当時様々な方が移住されており、自治会の成り立ちに差異がある。県営住宅もあり7地区に分かれている。高低差もあり交通や買物の利便性が悪い地区もある。それぞれの自治会で公民館活動や地域行事などは行っているが、老人会活動とは一体化していない傾向である。民生委員を中心に個別に見守り活動は取り組まれている。介護予防への意識が徐々に高まり、百歳体操に取り組んでいる団体もあるがニーズに対して不足している。高台に住まれる方々の移動手段の確保が課題となっている。</p>
大塔地区	<p>【卸本町】民生委員を中心に見守り活動はされているが、集まりの場はできていない。介護予防活動を取組む担い手がいない。卸団地自治会は、住民向けの自治体ではなく登録は企業主体。最近ではアパート建設が増えているが高齢者ほとんどいない様子で、所属自治体が把握できない。</p> <p>【大岳台町】新興住宅地が40年経ち今後も高齢化率は高まると予測される。大きなイベントを年に2回行える結束力があり公民館活動も充実しているが、参加メンバーは限られている。民生委員が中心に季節ごとに独居の方の食事会を開いたり、見守り活動を行っており、見守りネットワークが広がっている。</p> <p>【大塔町】アパートやマンションも多く若い世代が移住されてきている。大型スーパーもあり概ね平地であり買物しやすい。3地区に分かれており、世帯数等の規模が様々で自治会活動も差異がある。小規模な自治会は地域づくりの必要性を実感され、自治会で高齢化対策への取組みをされている。40年以上経つ住宅地では同時期に居住した名残で、顔の見える関係は作れているが、リーダーの担い手がいない現状である。自治会毎にネットワーク作りの後方支援や提案が必要。また、地域づくりの啓発活動を行う必要がある。</p> <p>【もみじが丘町】新興住宅地が新たな一町となり、20年ほど経ってはいるが就労中の方や児童など若い世代が多い。坂道ではあるがバスも通っておりスーパーもある。今後高齢化は確実に進むことが予測される。県営市営住宅もあり人の出入りの把握が難しく、独居や高齢者世帯も増えている。3地区に分かれており経済面等家族構成の差異が大きい。自治会の繋がりや地域で見守っていくネットワーク体制の形成が弱い。</p>

### 3. 独自の取り組み事項

	業務	取組み内容
	介護予防 ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が住み慣れた地域で健康寿命を延ばし活力ある日常生活が継続できるように、地域住民自身、高齢者自らが、介護予防に取り組みセルフマネジメントできる自助・互助の考え方の普及啓発と、インフォーマルサービス等の情報提供など具体策の提案を行っていく</li> <li>・高齢者の自立支援を図るために、全職員が適切なアセスメントを行い、より良いマネジメントができるよう、相談対応の手法を学び実践していく</li> <li>・地域ケア会議や民生委員定例会、自治協議会等において「自立支援の視点や考え方」を発信し、自治会主要職役職の方々や地域関係者にも、理解得られるように普及していく</li> <li>・居宅介護支援事業所(介護支援専門員)や介護事業所及び専門職種へも、自立支援に資するマネジメントやサービス内容について助言・指導を行う</li> <li>・自立支援型地域ケア会議を学び、長寿社会課と協同して佐世保市における「地域個別ケア会議」を形づくっていく</li> </ul>
包 括 的 支 援 事 業	地域のニーズに 応じた自主活動 の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの地域で、サロン活動のリーダーやサポーターとなる人材育成の支援(サロンサポーター育成研修会の後援)と、サロンサポーターや自治会主要職役職の方々と協同して、サロン立ち上げに取り組む</li> <li>・自治会、老人会等の地域活動へ、百歳体操やコグニサイズなど効果的な運動・認知機能のトレーニングメニューを紹介し、介護予防活動の必要性の啓発と普及推進していく</li> <li>・現在活動されている自治会、老人会単位の集まりや、取り組まれている百歳体操も継続できるように、圏域の介護事業所や社会福祉協議会と協力し、後方支援を続ける</li> <li>・各サロンを定期的にモニタリングし、進捗状況に応じて、地域介護予防活動支援事業補助金活用の説明支援や、運営体制などが習熟したサロンについては長寿社会課に相談しながら介護予防日常生活支援総合事業通所サービスB型への転換を推奨していく。</li> <li>・地域サロンという定期的な集いの場において、参加者から地域での困りごとを聴取し、地域ケア会議等を活用して地域関係者や生活支援コーディネーター、医療介護専門職等と協働し住民主体の生活支援サービスへと繋げていく</li> <li>・圏域内の介護支援専門員の定例会において、地域の介護支援専門員と協働で地域アセスメントを実施し、地域ニーズに適應したインフォーマルな社会資源の構築を目指す</li> </ul>
	地域ネットワーク 構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムの基盤となるよう、各介護事業所等が行っているフォーマルサービス以外の社会貢献活動や地域支援活動と、地域課題やニーズと繋ぎ地域生活に有効となる社会資源の構築を支援する</li> <li>・病院・医院(歯科や眼科などの専門科外来も含む医療)や薬局、銀行・郵便局、コンビニやスーパー等も地域資源として地域支援活動の必要性の啓発普及を行い、地域課題やニーズと繋ぎ、地域生活に有効となる社会資源の開発を支援する</li> <li>・地域ケア会議を活用し、圏域全体において相互に顔の見える関係を形成し、異変が早期に発見でき対応や予防できる体制となり、包括へも地域の情報が繋がるよう地域ネットワーク作りを推進する</li> <li>・地域住民の方々が認知症に関する正しい知識と理解を高めるために、認知症サポーター養成講座開催や講演会や研修等の情報広報して、学ぶ機会を増やす</li> <li>・地域住民の方々に消費者被害や虐待問題等の情報を発信し、未然に予防できる地域作りや解決策を会得するために、成年後見制度等の権利擁護について学ぶ機会を増やす</li> <li>・定期的に開催する圏域内の主任介護支援専門員を中心とした連絡会の中で、インフォーマルサービスを中心とした情報交換を行う相互の協力体制や役割分担を確認しながら、地域ネットワーク作りを協働していく</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携協働し、地域課題・地域ニーズの把握に努め、情報が共有できることで、相互の活動分担や明確化を図りながら、より活動範囲を広げていく</li> </ul>

# 平成 30 年度 佐世保市日宇地域包括支援センター 活動報告書

## ○重点項目への取り組み内容

### ●地域のニーズに応じた自主活動の支援

#### サロン立ち上げ

平成 29 年度に介護予防普及活動に力を入れ、各地区に健康教育や講話を続けた結果、平成 30 年度は「いきいき百歳体操」を主体とした介護予防への体操を実施される団体が新たに 8 ヶ所増え、日宇地区で 18 か所に増やすことが出来た。内、13 か所は毎週介護予防活動を実施されている。

#### サロンサポーター養成講座の開催

サロンが増えるきっかけとなった要因には、介護予防の必要性や効果の説明、実演などの普及活動もあるが、平成 29 年度よりサロンサポーター養成講座を開催したこともある。卒業生は 72 名に及び、卒業生が主になりサロンを立ち上げられたところも 7 か所ある。開催当初サロンの必要性について判断しかねていた方々も、卒業時期になると必要性を実感して下さった。

#### サロンへの後方支援

立ち上がったグループの悩みの共通点に、会の継続や活動内容の不足があった。生活支援コーディネーターがセラピストである利点を生かし、いきいき百歳体操の効果や加齢に伴う身体の変化をサロン参加者へ伝えていった。また、社会福祉協議会と一緒にレクリエーションや脳トレの技術を紹介したが、充分とは言えない状態であった。そこで、サロンを支える仕組みが必要と考え、圏域の福祉事業所や医療関係者への協力を呼びかけた。

#### ◎「日宇よかよかネット」の設立◎

5 月に圏域の福祉事業所と意見交換会、8 月にサロン代表者と協賛事業所との顔合せ会を実施した。その中で、ネットワークの命名を行い「日宇よかよかネット」が立ち上がる。平成 30 年度末で協賛事業所は福祉事業所 16 ヶ所、歯科医院 1 ヶ所、薬局 1 ヶ所に及ぶ。内容としては、各事業所で出来る事と住民側の必要とするところをマッチングし、10 月より始動。活動内容としては、レクリエーションや脳トレ、講話などを提供、他には送迎支援や体操の DVD 提供(ラジオ体操やオリジナル体操)、不足している備品の貸与などがある。

#### 「日宇よかよかフォーラム」の開催

サロン活動や後方支援の報告を地域に向けて行うことで、更に地域全体の取組みとして発展していくことを目的として、生活支援コーディネーターの協力も得て地域ケア会議「日宇よかよかフォーラム」を開催する。対象者は、サロンのグループ代表だけでなくメンバー全員、これから立ち上げを検討しているグループ、自治会や民生委員の方々に参加を呼びかけた。各グループの活動状況を代表者に報告して頂いた後、サロンを 1 年以上継続され、日宇よかよかネットから実際支援に入った 3 グループとその事業所とでパネルディスカッションを行った。事業所からの支援を地域のグループに紹介してきたが、イメージが湧いていなかったグループもあった。そういったグループからも地域に応援してくれる団体が沢山いることが分かり、今後の活動の充実につながるという感想も多く聞かれた。次年度も活動ができにくい地区の意識改革ができるよう、生活支援コーディネーターや社会福祉協議会と協力し働きかけていく。



## ●地域ネットワーク構築

### 警察・社協・弁護士の講演開催

・平成 30 年度は地域住民の方々に消費者被害や虐待問題等の情報を発信し、未然に予防できる地域作りや解決策を会得するために、成年後見制度等の権利擁護について学ぶ機会の提供を行った。  
サロン活動とリンクし、社会福祉協議会の方から権利擁護について、又佐世保警察の方から 詐欺被害や免許返納について、自然災害被害について、の講話をして頂いた。年度末には、法テラスの馬場弁護士、佐藤弁護士に講演をいただき、身近な相談機関である事を地域住民の方にご理解頂いた。



包括支援センターとしても、詐欺被害・虐待の現状について、資料を地域住民の方と一緒に読み解いた。後日談として、訪問販売の電話が入ったが、「お金のなかげんね」と慌てず断る事が出来たと報告があった。継続した啓発活動の重要性を感じた。次年度は啓発活動として、視覚的にも確認出来る様にチラシを作成し配付活用を検討していく。

法テラス講演会:参加者アンケート結果(回答者 82 名)

- ・弁護士さんの講演は今後の生活に役に立ちそうですか? ◎はい(74 名) ◎いいえ(4 名) ◎無回答(4 名)
- ・主なご意見(もっと高齢になった時困りごとが起こった時心強く感じました・法律の知識を身近に収集できぬになりました。・法テラスが少し身近に思えました。何かあった時にはと安心感が出ました。・成年後見制度の必要性をより感じるようになった。法テラスとは聞いたことがあったのですが、本日の説明で内容が理解出来ました。)

### 医療との連携

・圏域内にある往診等も行っていただいているホームドクター(内科医)との連携は図れていたが、高齢者受診率が高い歯科や眼科などの専門外来医(歯科:9 件 眼科:1 件 耳鼻科 1 件)や薬局(13 件)へ出向いた。「日宇よかよかネット」の案内を行い、地域の社会資源形成の必要性や、見守りや異変に気付き情報共有や相談できるネットワーク形成への協力を呼びかけることができた。  
・圏域内にある薬局と包括、居宅事業所と交流情報交換会を開催、顔の見える関係づくりのスタートとなった。高齢者の在宅生活の支え手として薬剤師へのニーズは高まっている中で、どのような手段で関わっていくことができるのか、薬局ごとの体制も異なり其々に模索されている現状が分かり、共感でき相談協力できるパートナーと成り得ることが認識できた。

### その他の取り組み

・「地域サロンという定期的な集いの場において、参加者から地域での困りごとを徴収し、生活支援サービスへと繋げていく」としていたが至らなかった。  
サロンが開設し定着しつつあるが、サロンに参加していた方が来なくなったりされている件については、リーダーが声かけたりして安否確認はとれている。それ以上に状態変化がある方については包括へ個別相談して下さるケースも無いが、その流れを全サロンに根付かせるまでに至っていない現状である。サロンの参加者間で、自分達が身近に感じている困りごとや、必要に感じている互助について話し合う機会をサロン毎に持つまでに至らなかった。この 2 点を次年度は、第 2 層 SC と協働し取り組むことで、生活支援が進み、日宇圏域独自の支え合い活動となることを目指す。  
・「地域アセスメントを実施」

平成 30 年度の新規相談件数を町別で分け、それぞれの高齢者数に対する割合を分析。黒髪町、日宇町、白岳町に比べて大塔町、卸本町、大岳台町は半分程度の割合である事が分かった。要因としてあげられるのはまず、立地的なものである。センターに比較的近い町が割合が高く、逆に遠い町は割合が低くなっている。また、割合の低い町においてはサロン立ち上げについての反応が鈍いという特徴があり、何らかの関係があると思われる。今後は割合の低い町に対して、健康教育や講話などアウトリーチを増やし、隠れた課題、ニーズの掘り起こしを行っていく。

# 平成30年度 佐世保市山澄地域包括支援センター事業計画

## 1. 地域包括支援センター事業計画について

佐世保市山澄地域包括支援センターは、地域包括支援センター運営事業を実施するにあたり、市が示す仕様書、事業実施マニュアル、運営方針を遵守するとともに、本事業計画の内容を踏まえ、事業を推進します。

## 2. 地域の現状と課題

担当地区	現状と課題
圏域共通	<p>高齢化率が平均で33%と佐世保市平均より高い状況にあります。社会資源については、駅周辺や大宮周辺に多数の医療機関があります。介護サービス事業所についても、複数の施設があります。</p> <p>交通の便も、バスが整備されていますが、階段や坂道等が多数あるため、足腰が悪くなると移動はタクシーを利用することが増え、経済的に負担が増え、外出を控えるなど閉じこもり傾向に繋がります。</p>
潮見・白南風地区	<p>もともと住宅地であった斜面地と駅周辺のマンションが存在します。潮見・白南風のどちらの圏域も高齢化率が33パーセントを超え、人口に対し世帯数も多く状況です。一世帯当たりの人数が潮見で1.9人、白南風で2.1人と佐世保市平均の2.4人より少ない状況にあります。高齢者の単身及び夫婦のみの世帯も多く存在します。駅前のマンションでは築年数の経つマンションも多く、住人の高齢化も問題となっています。マンションでは住人同士の繋がりが希薄になる傾向やオートロックにて外部からの安否確認が不十分となる傾向にあります。また、斜面地では買い物、住宅環境、世代交流、防災面への不安など問題を抱えています。各町内に公民館はありますが、移動が困難な高齢者も多くの課題を抱えています。</p>
天神・福石・木風地区	<p>大宮周辺の商店街と住宅地があり、マンションより戸建て住宅が多い状況です。大黒、東山、天神では住宅密集地が多く車の進入ができない地域も存在します。数年前にスーパーが閉店となり、買い物の問題が取り上げられましたが、新たなスーパーやコンビニなどが出来、買い物問題は解消傾向にあります。</p> <p>大黒、東山、十郎原と公営住宅もあり、高齢者の単身世帯や夫婦のみの世帯や、障害を抱える世帯など、高齢者本人のみではなく世帯の全体に問題を抱えるケースも多く見られる状況にあります。</p>

### 3. 独自の取り組み事項

	業務	取り組み内容
包 括 的 支 援 事 業	包括的継続的 ケアマネジメント 業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>①窓口だけでの対応ではなく、訪問にて状況確認を行います。</li> <li>②状況確認後、CMとの課題の共有を行い自立支援型ケアマネジメントの支援を行います。</li> <li>③介護サービス終了者や対応の結果、未申請となった方達のフォローアップを行います。</li> <li>④地域ケア会議を通し、個別の事例検討や課題の共有を行い、CMの課題の解決にケアマネジメントの質の向上を目指します。</li> </ul>
	介護予防活動の 充実と地域支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>①現在活動発足している24団体への定期フォローを行い体力測定から虚弱高齢者の早期発見と地域の関係者と情報共有を図ります。</li> <li>②各地区自治協議会へのアプローチ、特に崎辺地区自治協議会では、6月から基幹型の介護予防の場作りを協働で行います。</li> <li>③独居高齢者と高齢世帯の把握を行い、相談に繋がっていないケースの発見に努めます。</li> </ul>
	認知症相談への 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>①認知症疾患医療センターとの連携ケースから、ニーズ把握を行います。</li> <li>②初期の認知症の方のニーズ把握と支援を行います。把握したニーズに対しては、資源が開発できるよう働きかけを行います。</li> </ul>



# 平成30年度 佐世保市山澄地域包括支援センター活動報告書

## 重点項目への取り組み内容

### 1、包括的継続的ケアマネジメント

#### ◎取り組み内容(事業計画記載分)

- ①窓口だけでの対応ではなく、訪問にて状況確認を行います。
- ②状況確認後、CMとの課題の共有を行い自立支援型ケアマネジメントの支援を行います。
- ③介護サービス終了者や対応の結果、未申請となった方達のフォローアップを行います。
- ④地域ケア会議を通し、個別の事例検討や課題の共有を行い、CMの課題の解決にケアマネジメントの質の向上を目指します。

#### ◎取り組みの結果

- ①②については、年間を通じて取り組むことが出来、自立支援にもつながった。また、生活支援体制や一般介護予防の充実もあり、介護保険サービスだけでなく、地域活動にて対応する方も増えた。
- ③気になる方については3か月から半年程度に1回訪問が出来たが、人手の問題もあり、訪問による対応は難しい状況がある。
- ④平成30年度は地域ケア個別会議が始まり、主体的に参加でき、今年度からの自包括開催にもスムーズに移行ができた。ケアマネジャーの自立への意識も高まった。

#### ◎振り返り

訪問による相談対応は、ケースを知る人が同じ事業所内にいることでケアマネジャーの安心感や地域活動に繋がれるなど効果は高いが、その分人手もかかり、全体の業務を圧迫する可能性がある。地域ケア個別会議については、平成30年度はケアマネジャーのアセスメント力向上にもつながり効果があったが、地域課題の発掘やケースの自立支援にまではつながらないケースも多く、平成31年度の自包括開催の課題と言える。

### 2、介護予防活動の充実と地域支援

#### ◎取り組み内容(事業計画記載分)

- ①現在活動発足している24団体への定期フォローを行い体力測定から虚弱高齢者の早期発見と地域関係者と情報共有を図ります。
- ②各地区自治協議会へのアプローチ、特に崎辺地区自治協議会では、6月から基幹型の介護予防の場作りを協働で行います。
- ③独居高齢者と高齢世帯の把握を行い、相談に繋がっていないケースの発見に努めます。

#### ◎取り組みの結果

- ①40団体以上に増えたが、定期的な訪問や体力測定を実施し、虚弱高齢者の発見フォローが出来ている。
- ②崎辺では基幹型サロン、南では100歳体操サミット、山澄では社協と共催にて啓発活動を行い、各自協と連携した、「いきいき100歳体操」の啓発が出来ている。
- ③民生委員や地域住民等からの相談への対応はできている。体力測定で虚弱と判定した人への訪問対応もできているが、人手がギリギリの状況。

#### ◎振り返り

概ね各町に介護予防団体(自主活動グループ)ができ、介護予防につながっている。今後はフォローの体制にも人手も必要となるので工夫が必要だが、介護予防団体が様々な活動の展開の起点にもなることもあるため、継続した関わりは必要である。



## その他の取り組み状況

### 1、介護予防ケアマネジメントの地域のインフォーマルの位置づけ

#### ◎取り組み内容

- ①プラン作成担当の地域の一般介護予防事業への訪問による情報収集
- ②保健師による、地域活動の情報集約を行いプラン作成担当者への配布
- ③必要がある場合の三職種とプラン作成担当者との同行

#### ◎取り組みの結果

- ①プラン作成担当が自主活動グループを訪問することで、自分の言葉で活動内容を伝えることができ、ケアプランへの位置づけた。
- ②情報が集約されており、プラン作成担当が検討をしやすくなった。
- ③複数の視点で利用者に関わることで支援の視野が広がることにつながった。

#### ◎振り返り

1年前と比べると生活支援体制整備事業の開始もあり、介護予防マネジメントに地域活動が位置付けられるケースが増えてきている。プラン作成担当者も、忙しい中にもなんとか時間を作り、自分自身の目で自主活動グループを把握し紹介するなど、積極的に取り組んでいる。

### 2、窓口相談から訪問、プラン作成へのプロセスについて

#### ①窓口から訪問

訪問時の対応については、職員で何度も打合せを重ねた。どうしたら、利用者の今の生活を承認することができ、課題と一緒に気づくことができるのか、単純にサービスの必要性を見極めるのではなく、本人の思いをくみとることに重点を置いた。

#### ②プラン作成担当者への引継ぎ

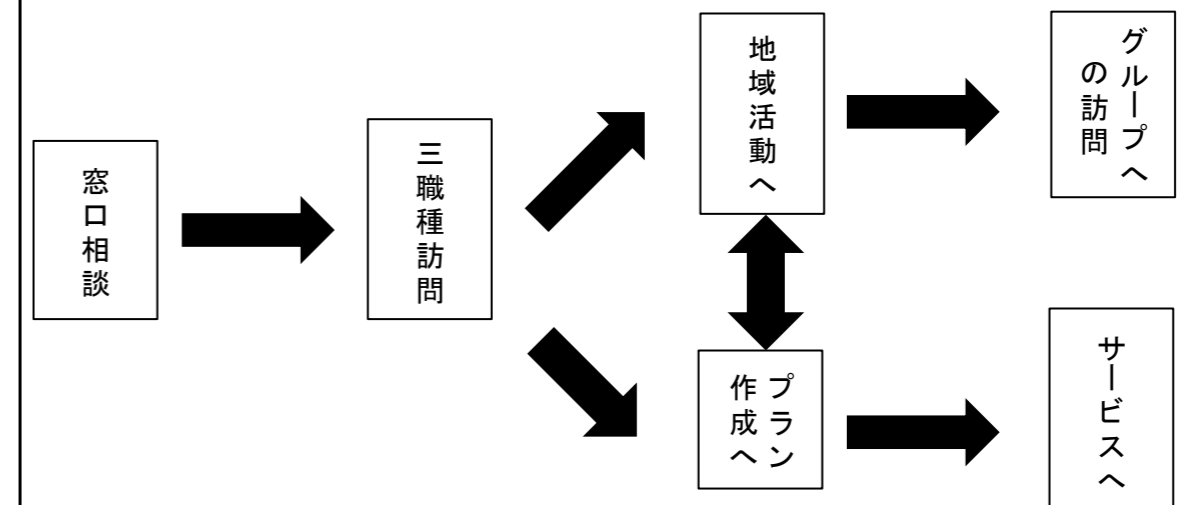
文書や必要によっては、同行訪問等も行いながら、引継ぎを行う。利用者の思いの部分を引き継ぐことで、明確な目標につながるケースも出てくる。

#### ③その後のフォロー

利用者に何か課題が上がった時でも、同行訪問した職員は家族状況等も把握しており、一緒に検討することができた。

#### ◎効果と振り返り

全ての利用者ではないが、目標意識の向上やプラン作成担当者と利用者本人の課題の共有にもつながり効果は大きかったが、三職種の訪問件数の増加等、業務全般の圧迫にもつながった。



# 平成30年度 佐世保市中部地域包括支援センター事業計画

## 1. 地域包括支援センター事業計画について

佐世保市中部地域包括支援センターは、地域包括支援センター運営事業を実施するにあたり、市が示す仕様書、事業実施マニュアル、運営方針を遵守するとともに、本事業計画の内容を踏まえ、事業を推進します。

## 2. 地域の現状と課題

担当地区	現状と課題
光園地区	現状：病院・買い物・交通・スポーツクラブなど生活環境は恵まれている地区。民生委員児童委員はじめ地域ケア会議に積極的に参加され、地域づくりの関心も高い。 課題：既存のサロン活動は継続されているが、いきいき百歳体操の普及啓発継続し、新規のサロンの立ち上げに繋げていく
戸尾地区	現状：大型マンションの増加により、マンション住人の高齢者の状況把握が民生委員児童委員も難しい状況。集まりの場が少ない地区でもある。 課題：自治会に入っていない高齢者の情報を関係機関と共有できるネットワークを深めていく
山手地区	現状：認知症に関連する活動を独自で取り組まれている。地域からの相談が少ない地域がある。いきいき百歳への関心が高まっているが、介護予防に関心がある地域差がある。 課題：自発的・継続的に介護予防に取り組んでもらえるよう継続して地域に出向き普及啓発を行なう。気になる高齢者の情報を民生委員児童委員と共有し支援体制を深めていく。
小佐世保地区	現状：バスが通わない地域は外出の機会が減少傾向になっている。集まりの場は活発に継続的に活動している。地域づくりの関心も高まっている。 課題：高齢化している団地へのアプローチ。

## 3. 独自の取り組み事項

	業務	取り組み内容
包 括 的 支 援 事 業	地域ケア会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援の視点に目を向けた「自立支援型地域個別ケア会議」を開催し、会議を通して地域の情報収集と問題把握に努め、社会資源の開発にも繋がります。</li> <li>自立支援の視点を持ち支援できるよう、所内で定期的に事例検討会を行い、職員のスキルアップに努めます。</li> <li>地域のケアマネジャーに地域ケア会議開催を働きかけ気軽に相談できる関係づくりに継続的に努めます。</li> <li>全地区の民生委員児童委員定例会に参加し、ケース会議を随時行ない、地域の情報収集と問題把握を行い地域ケア会議に繋がります。</li> </ul>
	介護予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いきいき百歳体操」「介護予防」の普及啓発活動を継続して行い、新規サロンの立ち上げ支援を行ないます。</li> <li>既存サロン・グループが継続的に活動できるよう地域の事業所やリハビリの専門職の方などと連携をとり継続支援に努めます。</li> <li>自主活動グループに積極的に出向き、地域活動の把握と関係づくりに取り組み、地域の特色を伸ばせるよう支援します。</li> <li>協議体の一員として、生活コーディネーターと一緒に社会資源の把握と開発に繋がっていきます。</li> </ul>
	認知症対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>おれんじカフェの企画運営に継続して取り組み、気軽に利用できる場が提供できるよう関係機関と協議していきます。</li> <li>認知症がある高齢者の権利擁護である成年後見制度の利用などの働きかけ、支援を行います。</li> <li>認知症高齢者の増加により、行方不明になる恐れのある高齢者に対し佐世保市への「高齢者事前見守り登録」の働きかけと広報を行います。</li> <li>住み慣れた地域で認知症サポーターが活躍してもらえるような関係づくりに努め、協働していけるような支援体制をつくります。</li> </ul>

# 平成30年度 佐世保市中部地域包括支援センター 活動報告

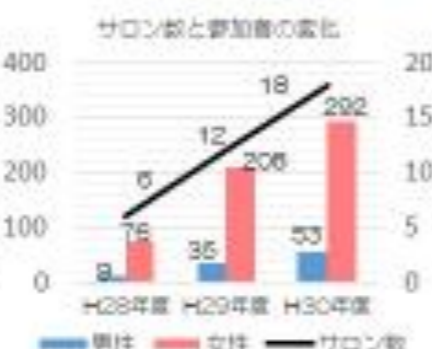
## 重要項目の取り組み内容

### ① 「いきいき百歳体操」の普及と自主活動サロンの支援

#### 百歳体操を行っている自主活動サロン

H30年度は、体操に取り組むサロンが新たに6ヶ所立ち上がり中部地区全体で18ヶ所となりました。この2年間で男性の参加者は約6倍、女性は約4倍と増加しております。また、活動を休止したサロンは1ヶ所もありません。

包括では、定期的な訪問や体力測定、結果に応じた健康教室の開催を行い、活動が継続できるよう後方支援に努め、参加者から気になる高齢者の情報を頂くことも多く、サロンは地域の高齢者の把握の場にもなっています。



#### サロン交流会開催



包括初の試みとして四ヶ町商店街女子部の皆さんの協力も頂き、中部地区サロン交流会『よんぷら・まちフェス』を9月24日に開催。サロンからは39名、地域の事業所等より15名の参加がありました。当日は、集合場所と会場を結ぶ四ヶ町アーケード内約400m間を参加者同士が各別交換をしながら移動したり、会場ではサロン紹介ポスターの掲示や体力測定など様々な企画を実施し、サロン間・サロン参加者と事業所スタッフの交流を図りました。

後半は「サロンで取り組んでいること」「今後取り組みたいことや悩み」についてグループワークを実施、活発な意見交換が行われました。終了後のアンケートでは、サロン参加者からは「他のサロンの活動が興味を惹いた」「教えてもらった活動を自分のサロンでも取り入れたい」等、また事業所スタッフからは「地域の方がサロン活動継続に励む姿に感銘を受けた」等の意見が聞かれました。「同様の会を今後も行って欲しい」との意見も多数頂きました。



#### まちづくり懇談会開催



12月4日に『もっと元気な、もっと楽しいサロンを目指して！～地域の協力団体を活用しよう～』をテーマに開催し、自治協議会会長はじめ役員の方、各サロンの参加者など47名の参加がありました。

前半にはサロン同士の交流の一環としてバグダー大会を実施、各サロンのチームワークの良さが随所でみられ、大変盛り上がりしました。後半は、サロン交流会の報告と、第2層生活支援コーディネーターより、サロン活動継続に向けた地域の事業所等の協力内容を紹介しました。今後はサロンからの希望に応じ、マッチングを行っていく予定です。

また、中部地区の支え合い活動を担うマスコットとして、「中部」→「ちゅーぷ(管)」→「つなぐ」をコンセプトに各サロンから公募を行いました。集まった計13作品を掲示し当日の参加者に投票して頂いた結果、右マスコットに決定しました。包括だよりや会議報告等に掲載し、地域住民を中心に支え合い活動の『和』を広げていけるように、マスコットと共に継続して支援を行います。



## 重要項目の取り組み内容

### ② 自立支援型地域ケア会議の周知

#### 介護予防をテーマにした地域ケア会議の開催

平成30年度に佐世保市主催でスタートした『地域ケア個別会議（自立支援型地域ケア会議）』の目的や方法を周知するための会議（研修）を3回シリーズで山澄包括と合同開催しました。今後、地域ケア個別会議への参加が予想される関係機関や地域役員に声をかけ、高齢者が自立した生活を送るためのポイントとなる「栄養・栄養・口腔・リハビリ」をテーマに選びました。

前半は地域の居宅ケアマネジャーに提供してもらった事例で実際に地域ケア個別会議を行い、専門職からの助言をもらうなど参加者に一連の流れを見てもらい、後半では各専門職からテーマに関連した講話をしてもらいました。平成31年度包括主催地域ケア個別会議に向けて、具体的な方法や目的などを共有することができました。



テーマ	講師	参加人数
栄養支援	薬剤師・訪問看護師	90名
食事・栄養・口腔	歯科医師・管理栄養士	73名
運動機能・リハビリ	理学療法士・作業療法士	54名

#### 所内伝達研修の実施

市主催の地域ケア個別会議に事例提出した全てのケースについて、包括内で伝達を行い全職員に専門職からの助言内容や今後の支援方針などを伝え、自立支援の視点を学びました。

## その他の取り組み状況

### 地域における認知症見守りネットワークづくりの支援

#### 地域ケア会議『軽度認知症がある方に気付いた時、あなたならどうしますか?』開催

中部地区圏域の地域役員や医療機関・介護保険事業所など56名の方に参加していただきました。

地域での認知症見守りネットワークづくりを目指し、軽度認知症の症状や気づきのポイントを伝え、地域や専門職の方が普段どのような点で認知症に気付いているのか意見交換や、気づきから相談の流れ・包括がネットワーク作りのため取り組んでいる会議の紹介を行いました。まとめとして認知症に早い段階で気づき、誰かが関わることで本人の思いをしっかりと聞いておくことができ、今後本人が望まれる生活に向けて支援ができることを伝えました。会議後には、認知症の気づきポイントや相談先をまとめた『地域ケア会議通信』を町内会や関係機関など約150枚を配布し、周知に努めました。今後も会議を通じて地域づくりに取り組んでいきたいと思ひます。



【地域ケア会議通信】



#### 認知症カフェの運営



認知症当事者とそのご家族、地域の方など誰もが気軽に集まる交流の場として、H29年2月～三ヶ町アーケード内で中部・山澄・清水の3包括が月1回開催し、毎回約10名ほどお越し頂いています。今年度は事業所からも参加してもらい、ミニ講話やマッサージなどを行いました。当事者・家族・地域住民が共に参加し交流できる場として、今後も続けていきます。

# 平成30年度 佐世保市清水地域包括支援センター事業計画

## 1. 地域包括支援センター事業計画について

佐世保市清水地域包括支援センターは、地域包括支援センター運営事業を実施するにあたり、市が示す仕様書、事業実施マニュアル、運営方針を遵守するとともに、本事業計画の内容を踏まえ、事業を推進します。

## 2. 地域の現状と課題

担当地区	現状と課題
清水地区	中心部に位置しており坂が多く地域づくりが難しい地区だが、民生委員支援で基幹型サロンがあり、14町中老年人会7ヶ所、サロン10ヶ所と全ての箇所活発に活動している。百歳体操は6か所と半数残っているが介護予防啓発活動は前年度全町で実施できている。今後も関係づくりと啓発活動が必要である。
大久保地区	地区公民館がないため老人会長会がない。5町専用の五葉館でサロンがたち上がり、町内に公民館が無い所も月1回サロンで集いの場が17町のうち12町は立ち上がっている。週1回の百歳体操は現在1か所だが、サロンでの啓発活動により今後の地域の活性化が期待できる地区である。
金比良地区	中心部には近いが、坂が多く駐車場も無い所が多く空き家が多い地区である。民生委員支援で基幹型サロンは早くから立ち上がり定着している。町内のサロン・百歳体操は13町中4か所と前年度と変わらず、今後も継続して啓発活動と継続のためのサロン支援が必要である。
赤崎地区	6町のうちサロン5町が立ち上がり、2町は週1回の百歳体操を実施している。老人会も活発に活動しており、活気のある地区である。今後は月1回の所は週1回の百歳体操につなげていく。また関わっていない町へのアプローチが必要である。
九十九地区	中心部から離れており社会資源が限定される地区である。しかし地域のつながりが強く老人会は8町全部にあり、民生委員中心にサロン活動が活発である。まだサロンができていない2か所は実施予定で、百歳体操も3か所から、5か所予定している。今後も立ち上げ継続支援が必要である。

### 3. 独自の取り組み事項

	業務	取り組み内容
包 括 的 支 援 事 業	地域包括 ケアシステムの 構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員情報交換会「ほっとタイム」を継続開催し、良好な関係構築とケースの困難化を防ぐ。</li> <li>・高齢者の自助努力で自包括独自の「応援シート」を地域支援体制づくりに活用する。</li> <li>・医療と介護の組織団体の研修会・交流会の参加や企画協力を行い、重度者でも医療から介護へスムーズな移行が行え、地域で切れ目のない医療と介護の連携体制の構築実現を図る。</li> <li>・「おれんじタイム」を窓口設置し、認知症高齢者の予防と課題解決で相談会・勉強会を行う。</li> <li>・認知症集いの場「おれんじカフェ」の定期開催を行う。</li> <li>・基幹型サロンの福推協共同支援と地域サロンの継続支援と介護予防の推進を行う。</li> </ul>
	地域のニーズに 応じた業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のリーダー（民生委員・老人会・自治会も含む）や専門職で構成された支援チーム（レインボー）との交流会（サロンフェス）や勉強会（サロンタイム）を実施し、住民主体の自主活動グループの立ち上げや活動継続のための支援を行う。</li> <li>・地域の集いの場への参加や高齢者宅への訪問を行い、民生委員など地域からの情報を元に認知症や独居高齢者の把握を行い適切な支援を行う。</li> <li>・地域のサロンや百歳体操のフォロー支援を引き続き行いながら高齢者の生活状況を通して地域の把握を行い、サポーターとなりうる人材の情報収集も行っていく。</li> </ul>
	地域ネットワーク の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議の定期的開催で多職種と顔の見える関係づくり、課題解決と地域づくりを行う。</li> <li>・独自の「応援シート」を自助努力で活用し高齢者自らが作れるネットワークづくりの支援を行う。</li> <li>・独自の「抑止力シート」で消費者被害の防止に努める。</li> <li>・ケア会議では引き続き更なる社会資源の開発を続けネットワークの構築を図る。</li> <li>・圏域主任ケアマネと合同で「主任ケアマネタイム」を実施し圏域ケアマネ対象に勉強会を行う。</li> <li>・サポーター養成講座を実施し認知症を地域で見守れる体制づくりを行う。</li> <li>・虐待防止活動や成年後見制度を出前講座で周知活動を行い、また適切な判断と支援を行う。</li> <li>・基幹型サロンで地域リーダー養成研修をコーディネーターと共同企画し支え合い体制をつくる。</li> </ul>

# 平成30年度 佐世保市清水地域包括支援センター活動報告書

重点項目への取組み内容①

## 主任ケアマネタイム開催 (清水包括圏域事業所対象)

主催：2事業所+包括(5名) 参加：9事業所(20名)

<目的>

- ①担当地域内の生活圏域における主任介護支援専門員との協同主催によりスーパービジョン(管理的・教育的・支持的)機能の展開ができる
- ②介護支援専門員のケース対応のスキルアップを図る

<内容>

- ①講話：研修講師/障害福祉課保健師
- ②グループワーク  
テーマ「事例を深める勉強会」～家族支援を考える～

<成果>

- ～事前の予測～  
介護支援専門員：マネジメントする上でケースの問題点の予測能力向上  
自身の苦手意識の自己覚知  
主任介護支援専門員：事例をもとにスーパービジョンの展開ができる
- ～事後の効果～  
介護支援専門員：サービスの理解を深め制度の紹介や連携先の情報共有が行えた  
課題の優先順位や課題に対する見立て手立てを考える能力が向上した  
苦手と感じる部分の自己覚知ができた  
主任介護支援専門員：介護支援専門員への後方支援の方法を具体的に見い出せた。



その他の取組み状況①

### <認知症支援取組み活動>



<おれんじカフェ開催>  
3包括協同(山澄/中部/清水)



<H30認知症サポーター養成講座感謝状>  
認知症理解の推進  
(認知症サポーター養成講座開催)

その他の取組み状況②

### <サロン継続の為の支援活動>



チームレインボーサロン支援  
新聞取材対応  
チームレインボー活動の様子

コグニサイズ研修プログラム実施  
講師：コグニサイズトレーナー/  
チームレインボーメンバー



重点項目への取組み内容②

## 第2回清水包括サロンフェスティバルinアルカス佐世保

参加人数 165名

地域住民104+関係機関など61名

関係機関：(病院・介護保険サービス事業所 長寿社会課及び他包括  
日常生活支援コーディネーター第1届・第2届 社会福祉協議会)

特別参加：警察・ミュージシャン

<目的>

- ①交流(サロン間、サロンと支援者、支援者間)
- ②支援チーム(チームレインボー)の団結力強化
- ③いきいき百歳体操普及

<内容>

- 1) チームレインボーの紹介(5 [医療/福祉]事業所+清水包括)
  - ①きよしのズンドコ節(太鼓)
  - ②YMCA(踊り)
- 2) チームレインボー新規加入の紹介(5 [医療/福祉]事業所)
  - ①各事業所の紹介
  - ②レクリエーション 口腔体操 コグニ体操 講話など

※佐世保市内発信：テレビ佐世保放送・長崎新聞掲載



得られた効果

- ①地域住民：サロン継続メリットとして支援体制強化
- ②事業所：地域や他機関・包括との連携強化
- ③清水包括職員：他事業所と協働によるモチベーションUP

その他の取組み状況③

### <地域応援PR活動>

<西地区公民館まつり参加>  
チームレインボー太鼓隊を結成  
サロンフェスティバルで初紹介  
地域取組みである公民館まつりに参加



<大久保地区五葉館クリスマス会参加>  
オリジナル脚本での演劇披露  
会場皆でタイムスリップ  
昔を思い出して、  
盛り上がりは参加型のロカビリーダンス  
元気に介護予防で若返り



# 平成30年度 佐世保市大野地域包括支援センター事業計画

## 1. 地域包括支援センター事業計画について

佐世保市大野地域包括支援センターは、地域包括支援センター運営事業を実施するにあたり、市が示す仕様書、事業実施マニュアル、運営方針を遵守するとともに、本事業計画の内容を踏まえ、事業を推進します。

## 2. 地域の現状と課題

担当地区	現状と課題
春日地区	春日地区は全8町で形成されている地区であり、高齢化率も36.1%と担当圏域内では最も高く、介護保険サービスを利用している人は要支援認定者の約7割となっている。その中で、いきいき百歳体操を中心とした活動に継続的に取り組んでいるのは8町中3町と少なく、地域の受け皿づくりが開拓できていない現状がある。その一方で、春日地区公民館における生涯学習や趣味活動、桜木町、春日2組公民館の健康体操など、以前より継続的に行われている地域活動もある。また、前年度より取り組んで来た桜木団地こまらん隊においては、地域による見守り支援も継続されており、来年度は買い物などのさらなる生活支援サービスの向上に向けて支援していく方針である。今年度は、これまで行われてきた地域の活動をより開かれたものにし、更なる受け皿作りが出来るよう、公民館長・自治会長、民生委員と協働していく必要性がある。
大野地区	大野地区はH18年度より地域コミュニティ推進事業のモデル地区となっており、市内先駆けて自治協作りに取り組んでこられた地区である。しかし、地域のリーダーの高齢化により次の時代を担う後継者作りの課題が出てきており、隠れた人材の発掘や、新たなリーダー養成の必要性が感じられる地域である。大野地区の人口は担当圏域の3分の2を占めるが、サロンや集まりの場が構築されている地域がまだ9カ所と少なく、介護保険の受け皿となる資源の開発が求められる。また、今まであまりアプローチ出来ていない、自治協議会とも連携し、今後新たに設置される生活支援コーディネーターや社会福祉協議会、更には社会福祉法人等とも協働することで、新たな集まりの場の構築と人材育成を行う。
柚木地区	柚木地区は山間部に住む高齢者が多く、高齢化率も35.8%と高い。また介護保険サービス利用率も申請者の82%を超える割合でサービス需要のある地域である。H29年度は民生委員児童委員や自治会長との連携を経て、6か所の新規サロンの立ち上げに関わることが出来た。但し、農家を生業としている方が多いため、次の担い手となる中年期や前期高年期の獲得が難しく、開催回数の増加とサロン内容の充実、場の継続が今後の課題である。中には、ボランティア精神にあふれる有志によるサロンの立ち上げも行われている。また地理的な要因で、公民館へ集まること自体が困難な方もおられ、参加できる方が限られていることから、交通手段の確立や山間部に孤立する高齢者の把握と対応が今後の課題である。

### 3. 独自の取り組み事項

	業務	取組み内容
	介護予防 ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>① H29年度に引き続き、各町内にある公民館の自主活動等の状況を把握し、社会資源台帳を作成する。(春日:5か所、大野:22か所、柚木:18か所)台帳に関する情報は生活支援コーディネーターと共有し、地域課題の発掘に努める。</li> <li>② これまで未開拓となっていた地区(大野・柚木地区の市営・県営団地、桜木町、春日町)へ地域の受け皿となる公民館・サロン活動の普及を行う。</li> <li>③ いきいき百歳体操をはじめとする活動を月1回以上行っている団体に対し、活動運営に携わるリーダーの養成等を行い、活動回数の増加を図る。また、週1回の公民館活動を行っている団体に対し、活動内容のステップアップを図る。</li> <li>④ いきいき百歳体操を活動基礎コースとし、地域の特色、参加者の活動量に応じた中級コースの開催・開拓を検討する。</li> <li>⑤ 活動のフォローアップ体制として、活動内容を充実させるためのマニュアル冊子の作成、地域の介護事業所・医療機関との連携を図り、活動のマンネリ化防止・地域ネットワークの構築を図る。</li> <li>⑥ まずは元気教室卒業生の追跡調査を行い、現在介護保険サービスの利用状況などの把握をし、介護保険の申請状況や地域に必要なとされる課題抽出を図る。</li> </ul>
包括的 支援 事業	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 社会福祉士の広報誌(権利擁護についての内容を出来るだけわかりやすく記載)を今年も作成・掲載依頼(2ヶ月1回)を継続して行っており、10か所への掲載依頼している。来年度は掲載箇所を増やし(病院・スーパー・施設など)、地域の方へ権利擁護への啓発や理解につなげていきたい。</li> <li>② 権利擁護に関しては、今年度は後見制度の申し立ての支援はなかったが、保佐人の辞任・選任の申し立ての支援を行った。また、次年度も地域のケアマネ向けに成年後見制度等の勉強会を開催し権利擁護の普及に努める。今後は、もっと地域に向き、成年後見制度や高齢者の権利擁護・消費生活トラブルに関する講話などを行い、制度への理解や普及に努めていきたい。また、地域の相談にも随時対応する。</li> <li>③ 虐待ケースについては、今年度より佐世保市による連携フローの変更があり、今までよりも迅速に対応出来るよう、虐待ケース発生時には、直ぐに所内でケース会議を開催し、相談員での情報共有とアセスメントを実施した。次年度は、ケースに備え、職員のアセスメント能力向上の為の勉強会や連携強化も図り、適切な対応が出来るよう研修等にも積極的に参加し自己研鑽にも努める。</li> </ul>
	総合相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 窓口相談に必要な資料・認知症・権利擁護・施設や社会資源紹介パンフレットなど、提供できるように整理し充実を図っていく。</li> <li>② 必要な人に必要なサービスが提供できるように窓口や訪問をして生活状況の確認をする。また新規申請の相談には出来るだけ自宅訪問し、その適正化を図る。</li> <li>③ サービス利用無い気になる方については電話連絡や定期訪問を行い、現状把握や新たなニーズの早期発見に努める。</li> </ul>
	包括的・継続的 ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新規相談は三職種で訪問し生活状況を確認する。困難事例はケース会議を行い、三職種で情報共有し、関係者会議に繋げるかの判断を行う。</li> <li>② 地域の介護支援専門員とティーミーティングを行い社会資源の情報提供や共有を行う。</li> <li>③ 地域個別ケア会議で自立支援のケアマネジメントを行うための前準備として、包括内にて承認会議を元にプレゼンテーションとアセスメント能力の向上を図り、地域個別ケア会議にスムーズに繋げる。</li> <li>④ 担当地区の民生委員児童委員との勉強会を開催する。</li> <li>⑤ 関係者会議・地域ケア会議にて困難事例解決やネットワーク構築・地域課題解決に繋げていく。</li> <li>⑥ 地域のケアマネの相談に対応し、今後も後方支援を継続していく。</li> </ul>



# 平成30年度 佐世保市大野地域包括支援センター活動報告書

## 重点項目への取組み内容

～介護予防ケアマネジメント～

H30年度は、いきいき百歳体操を通じて3ヶ所の公民館で新規の立ち上げ活動を行うことができました。

この3ヶ所以外にも、年数回程度の健康教室の関りだった公民館から、「月1回から定期開催をはじめたい」という声が上がったり、また「公民館の活動をきっかけに、新たに自分が立ち上げたい」という方も出てこられ、いきいき百歳体操を通じて、住民の皆さんの意識の変化を感じた1年となりました。

これまで同様、地域の立ち上げ支援には住民の方、地域の役員の方をはじめ社会福祉協議会の方や第2層SCの方との連携を行いました。その結果、H31年3月現在、大野地区20ヶ所、春日地区5ヶ所、柚木地区14ヶ所と集まりの場が広がりつつあります。

また、H30年度は大野地区自治協議会福祉部会との連携をきっかけに、大野地区においてのサロン立ち上げに大きな一歩を踏み出した年となりました。

大野地区福祉部会長からの依頼をきっかけに、全2回の日程で「百歳体操指導者講習会」を実施し、50名以上の参加者にいきいき百歳体操を普及することができました。立ち上げをする際の困り事、継続するためのポイントなどを、体操やレクレーションの実践を交えて参加者に体感していただきました。この会をきっかけに、「自分の町内でも取り組みたい」と話をされた方も多くH31年度の活動の拡充に繋がると考えられます。

左の写真は、講習会時に百歳体操を始めるに当たっての必要な物品（おもり、体操に必要なDVDや道具など）の展示を行いました。参加者は手に取ってみたい、その関心度の高さを感じました。



## 重点項目への取組み内容

～ティーミーティング（地域ケア会議）～

H30年度は地域の居宅介護支援事業所・通所介護事業所・訪問介護事業所に参加して頂き地域ケア個別会議についての勉強会を兼ねた交流会を行いました。

地域ケア個別会議を実践して繰り返すことで参加者のスキルアップ・合意形成・ケアの質の向上・ネットワーク構築・行政課題の発見・把握につなげる事を目的に、「自立支援とは」の説明を行い、実際長寿社会課で開催された会議に参加されたケアマネジャーや事業所に感想を発表して頂きました。

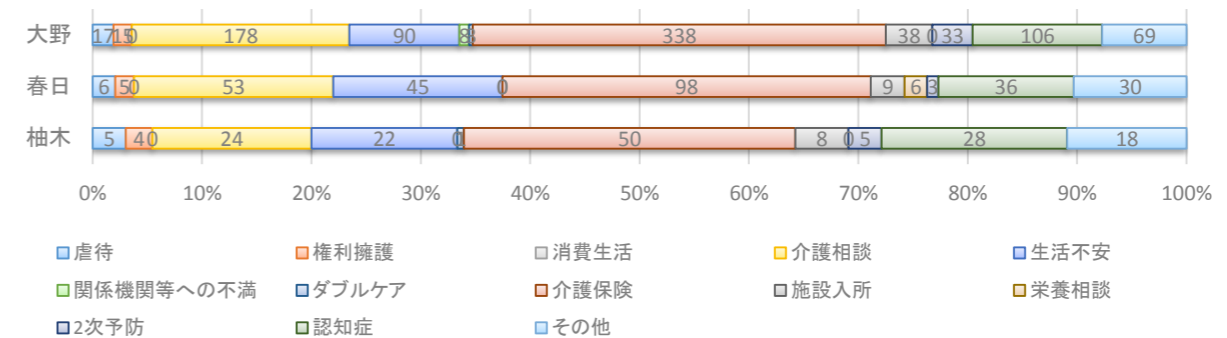
また、生活支援コーディネーターや介護予防担当からも個別会議についてパワーポイントの資料で説明を行い、次年度からの更なる協力を仰ぎました。実際にケアを提供されているサービス事業所も高齢者のQOL（生活の質の向上）や自立支援について理解を深める会議となったようでした。

最後に、なかなか普段はお互いの事業所のことを知らないという意見が出たことを基に、「私の事業所の良い所自慢」と称して、スタッフの手作りおやつを食べながら和やかな雰囲気の中で意見交換が行われ、幕を閉じました。



## その他の取り組み状況

～総合相談～



## その他の取り組み状況



### 《他職種との連携》

～医療機関との連携～

担当圏域内において医療機関の中核的役割を果たす病院の一つに長崎労災病院があります。その中のリハビリテーション部においては、昨年度より、地域のサロンに講師として地域に出向いてもらう機会が増えました。理学療法士や作業療法士などの専門職が来られるということで、サロン開催時には通常より多くの方が参加していただき、日常生活動作の緩和に役立つ知識や運動を教えて頂きました。また、反対に労災病院で開催される、市民公開講座や健康フェスタなどに講師として招いて頂き、講演依頼を受けるなど、「もちつもたれつ」の関係を築くことが出来ました。

平成30年度の年間相談件数は1,140件と昨年(949件)から大幅に増加し、包括の機能が地域住民や医療機関などに認知され、地域の総合相談所としての機能を担っているものと考えられます。実際に、児童虐待の相談なども数件あり、関係機関につなげる対応も行うことが出来ました。地域別では、大野地区717件、春日地区232件、柚木地区121件(その他の地域から70件の相談あり)。3地区とも**介護保険(総合事業)**についての相談が約4割で、続いて**介護相談**が約2割。今年度より統計に入った**認知症**に関しては、全相談の1.5割、先に挙げた相談と重複したものが多くみられました。権利擁護に関しては、消費者トラブルの相談はなかったものの、成年後見制度についての相談は多く、実際に後見の申立が1件、市長申立が1件の支援を行いました。また、倒壊寸前の自宅に生まれ、命の危険もあった認知症高齢者が市長申立に繋がりと、安心した生活を確保できた事例もありました。虐待については、本人や家族の事情など様々な要因が重なり、障がい福祉課や生活福祉課と連携し、現在も支援を継続しているケースも多くあります。

～警察との連携～

包括は365日24時間体制となっている為、時間外緊急電話にかかってくる相談は年間100件程度あります。その内相談表に上るまでの内容は40件程度ですが、そのほとんどが警察署からの「行方不明者に対する情報提供依頼、や認知症の方が暴れているので対応して欲しい」という内容でした。認知症の方は介護認定がついている事が多い為、包括には情報がなく、民生委員や地域の方、事業所に情報提供依頼を

～広報誌の作成～

H31年度も「包括たより」と「ソーシャルワーカーたより」を年間6回ほど発行することが出来ました。地域の関係機関や自治協議会にも配布することが出来たことより、今後も紙面での



# 平成30年度 佐世保市相浦地域包括支援センター事業計画

## 1. 地域包括支援センター事業計画について

佐世保市相浦地域包括支援センターは、地域包括支援センター運営事業を実施するにあたり、市が示す仕様書、事業実施マニュアル、運営方針を遵守するとともに、本事業計画の内容を踏まえ、事業を推進します。

## 2. 地域の現状と課題

担当地区	現状と課題
小佐々地区	他地区よりもサロンなどが少なく「これから」継続的な活動を作り出せればという地域。昨年度は、社協と福推協、民協が連携しながら交流の場を開催し、今後も自主活動を通じたまちづくりをしようとしている。地域が取り組もうとしている活動に対し、協力してくれる事業所とのつながりを作るなど後方支援していく。
中里皆瀬地区	サロン開催やグループでのゴミ出し支援など、生活支援体制整備モデル事業を活かした活動ができている。生活支援コーディネーターや自治協との連携、地域の事業所にも協力を働きかけることで、地域の中の自主的な活動を継続活性化させていきたい。
日野・相浦・高島・浅子地区	ふれあいネットワーク数は減少しているが、いきいき100歳体操実施グループが新しく立ち上がり始めた。民生委員協議会主催で事例検討会を行うなど高齢者支援にも熱心で連携も図りやすい。基幹型サロンの立ち上げや支援者となるリーダー養成をすることで、各地域のモデル的な活動を進めたい。
黒島地区	地域全体が高齢化し、住民同士の支え合いが難しくなっている状況。介護保険サービスに頼らざるを得ないケースや島外での生活を検討しなければならないケースへの支援を住民、民生委員、診療所、高齢者支援センター、行政と連携を図りながら対応していく。

### 3. 独自の取り組み事項

	業務	取組み内容
包 括 的 支 援 事 業	地域の協力体制・ネットワークの強化 (地域の福祉力を底上げする。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中にある自主活動や各事業所、社会資源(企業なども含む)などをお互いに有効に活用できるような働きかけを積極的にすることで「地域の福祉力」を向上します。</li> <li>・地域の介護支援専門員からの個別相談を受けたり、介護支援専門員と共催でケアマネ交流会(年4回開催予定)を開くことで、地域ニーズの対応力向上に努めます。</li> <li>・地域ケア会議や事例検討会を通じて、多職種協働の支援を行うとともに地域のネットワークを実効性のあるものとして定着させます。</li> </ul>
	介護予防の推進 (サービスのみに頼らず自立した生活に向けた支援をする。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いきいき100歳体操」など住民の自主的な介護予防活動の立ち上げや自主活動グループ交流会を開くなど、サービスや教室を卒業した後の受け皿としての継続支援にも努めます。</li> <li>・多職種や関係機関と連携し、予防的視点で高齢者の生活を支えるよう検討をします。</li> <li>・生活機能低下がみられるなど介護予防や生活支援が必要な高齢者には、適切な地域の自主活動や総合事業、サービスなどに繋がります。</li> </ul>
	医療との連携 (専門性を活かした地域への働きかけをしてもらえるような関係を作る。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入退院などで高齢者の状態や生活環境が変わった場合においても、その変化に応じて安定した生活ができるよう医療機関との連携やネットワークづくりに取り組みます。</li> <li>・昨年までに地域包括ケア会議や個別地域ケア会議に参加して頂いた医療機関や薬局と積極的に連携し、地域へも情報発信(サロンでの講話など)してもらえよう関係づくりに努めます。</li> <li>・在宅介護・在宅医療の連携推進を目的とした会議や研修に積極的に参加します。</li> </ul>

# 平成30年度 佐世保市相浦地域包括支援センター 活動報告

## 重点項目の取り組み内容

### 1. 地域の協力体制・ネットワークの強化 (地域の福祉力を底上げする。)



#### \* 地域ケア会議 \*

「地域の福祉力を活かそう！」  
～できることを、できるときに、  
地域の仲間と共に～

行政も地域も一体となって「自立支援に取り組む」という意識を持ってもらう為に、第1層と第2層生活支援コーディネーターから地域の自主活動などの報告をして頂いた。今後も、地域の活動やそれを支援したいという団体がお互いに情報発信できるような関係づくりに努め、地域のネットワークを実効性のあるものとして定着させていきたい。(参加人数：58名)

#### \* ケアマネ交流会 \*

- 第1回「地域医療において  
薬剤師の果たす役割」
- 第2回「グループワークで学ぶ  
チームビルディング効果・  
生活困窮者自立支援事業」
- 第3回「地域ケア会議と合同開催」
- 第4回「全国訪問ボランティア  
ナースの会：キャンパス佐々  
～事例紹介～」

各回持ち回りで地域の居宅介護支援事業所が担当することで、地域に向けたケアマネジャーの自主的な活動とし、地域ニーズの対応力向上に努めた。

### 2. 介護予防の推進 (サービスのみに頼らず自立した生活に向けた支援をする。)

#### \* 「いきいき100歳体操」など 自主活動支援 \*



- 立ち上げ支援 …… 10件
- 支援活動実施 …… 91回
- 補助金申請支援 …… 21団体
- 健康教育 …… 20回
- 介護予防講話 …… 23回
- 基幹型サロン立上げ支援 …… 1回 (相浦地区)

生活支援コーディネーター(他法人)との情報・意見交換のためのミーティングも定期的に行っている。



#### \* 自主活動グループ交流会 \*

「グループに取り入れてみませか？」  
～レクリエーションを学ぼう！～

地域の自主活動やいきいき100歳体操立ち上げ支援に携わる中で、その活動を地域の中で一生懸命続けようと奮闘している方々の支援も大切だと感じている。

そのような中、今回は少しでも自主活動を続けるためのヒントになることがあればと交流会を開き、レクリエーションの情報共有や意見交換で盛り上がり、各自主活動グループに持ち帰ってもらうことができた。

### 3. 医療との連携 (専門性を活かした地域への動きかけをしてもらえるような関係を作る。)

#### \* 在宅介護・在宅医療の連携推進を目的とした会議や研修への参加 \*

- 診療報酬改定の概要と医療介護連携(介護支援専門員連絡協議会)
- 佐世保市在宅医療・介護連携事業(佐世保市医師会)
- 在宅リハビリテーションの現状(介護支援専門員連絡協議会佐世保支部)
- 知って欲しい! 難病支援のあれこれ(長崎県難病連絡協議会)
- 県北地区多職種連携研修会(長崎県歯科医師会)
- 佐世保共済病院介護連携懇談会(佐世保共済病院)
- 佐世保市薬剤師会相浦地区吉井地区班会(佐世保市薬剤師会)
- 認知症における医療・介護の連携(石坂脳神経外科)
- 黒島地区保健福祉医療連携会議(社会福祉協議会)

#### その他の取り組み状況

#### \* 権利擁護業務 \*

- 後見親族申立て支援 …… 1件
- 後見市長申立て支援 …… 3件

債務整理など法テラスへの同行相談や  
成年後見制度利用に向けた裁判所への同行相談にも対応。今まで支援してきた身

#### \* 警察との連携 \*

相浦地区被害者支援ネットワーク会議  
高齢者交通安全アドバイザー事業所指定  
警察との連携(包括社会福祉士定例会)

安否確認がとれない、認知症  
高齢者の徘徊などケースを通した  
連携も早急に対応していただ  
いている。



#### 来年度に向けた課題

相談業務も多い中、介護保険申請相談時には全戸訪問となり訪問件数が増えている。総合相談から介護予防給付ケース以外の新規相談で訪問した件数が、233件(月19.4件)。包括班職員1名当たり、継続支援(CM支援、虐待対応、定期訪問など)約35ケースを担当しながら新規相談の訪問も回っている状況にあり、担当ケースの状況確認などが後回しになるケースもある。また、総合相談の分析や地区診断などデータ整理ができていない。平成31年度は、さらに「地域ケア個別会議」が業務に入っており、事務作業など準にも時間を要する。これまで以上に三職種のスケジュール管理や情報共有が必要になる。



# 平成30年度 佐世保市吉井地域包括支援センター事業計画

## 1. 地域包括支援センター事業計画について

佐世保市吉井地域包括支援センターは、地域包括支援センター運営事業を実施するにあたり、市が示す仕様書、事業実施マニュアル、運営方針を遵守するとともに、本事業計画の内容を踏まえ、事業を推進します。

## 2. 地域の現状と課題

担当地区	現状と課題
吉井地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特徴としては、炭鉱住宅等古い住宅が多くあり、4町の中でも独居高齢者の生活不安に関する相談が多い地区です。</li> <li>・山間部では買い物や受診に困る方が多く、公共交通機関が少ない地区です。</li> <li>・介護保険サービス事業所が多数あり、自主活動の立ち上がりが少ない地区です。現在、介護予防に取り組む自主活動グループは3団体あります。</li> </ul>
世知原地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特徴としては、山間部が多く4町の中でも高齢化率が高い地区です。また、買い物難民や受診困難者が多く、介護拒否や閉じこもりの方の相談が多い地区です。</li> <li>・福祉関係者で組織している団体(グリーンハートせちばる)があり、地域を支える活動を意欲的に行っている地区です。「福祉まつり」、「街頭相談」等が定期的に行われており、地域力が強く、連帯感が感じられます。</li> <li>・介護予防の取り組みについては、山間部が多く高齢化・過疎化が進行しているため、自主活動グループに参加したくても交通の便が悪く、参加できないケースが多いのが課題です。現在、介護予防に取り組む自主活動グループは3団体あります。</li> </ul>
江迎地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特徴としては、地域の拠点となる病院があり、病院からの相談が多い地区です。</li> <li>・山間部では、車以外の交通手段が無く、買い物や病院受診に困る方が多い地区です。</li> <li>・介護予防の取り組みについては、民生委員や地区長がリーダーとなり、閉じこもり傾向にある人を誘っていることが強みです。現在、介護予防に取り組む自主活動グループは9団体あり、4町の中では一番多い地区です。</li> </ul>
鹿町地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特徴としては、公共交通機関が少なく、沿岸部、及び山間部に住む高齢者が多いため、買い物や受診等に困る方が多く、生活不安の相談が多い地区です。</li> <li>・地域の社会資源や介護保険サービス事業所の数が少ない地区です。</li> <li>・介護予防の取り組みについては、民生委員がリーダーとなり、閉じこもり傾向の人を誘っているため活性化しています。さらに、活動場所になっている公民館3か所では、活動時間に合わせて某スーパーの移動販売の拠点となるため、今後「買い物難民の支援」と「介護予防」の相乗効果が期待できます。現在、介護予防に取り組む自主活動グループは5団体あります。</li> </ul>

### 3. 独自の取り組み事項

	業務	取組み内容
包 括 的 支 援 事 業	相談窓口の対応について	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談窓口の対応について、初回に適正なアセスメントを実施することで、本人のニーズに応じた対応(介護保険・総合事業の申請、地域の自主活動への参加等)を行い、自立支援に目を向けた支援ができるように窓口業務を強化していきます。そのために、介護保険のみならず、保健・医療・福祉サービスや生活支援サービス、さらに地域支え合い活動を含めた地域における様々な社会資源に結びつけ、各関係機関との連携を進めていきます。</li> </ul>
	介護予防について	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民主体の自主活動グループの立ち上げ支援を行います。また、介護予防に継続して取り組めるように、地域の状況を把握しながら、参加者の方が自主的に活動が継続できるよう支援に努めていきます。</li> <li>社会的活動(ボランティア)やサポーターを希望する高齢者の把握を行い、地域の活動につなげていきます。</li> <li>現在実施中の「いきいき百歳体操」や「嚙下体操」の効果を検証し、現状と課題および介護予防の効果を、地域の高齢者に包括の広報誌や、健康教育等を行いながら周知していきます。</li> </ul>
	地域包括ケアシステムの構築について	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケア会議を開催し、介護事業者、医療機関、民生委員、生活支援コーディネーターをはじめとする地域の協力団体、ボランティア団体等との連携を図ります。また、地域において高齢者が生活する上で解決すべき課題を一緒に考え、適切なサービス、支援につなげていく仕組み作りに取り組み、地域包括ケアシステムの構築に努めていきます。</li> <li>多職種の方が参加できるような会議の開催及び、顔が見える関係が作れるような交流会や勉強会を実施していき、ネットワーク作りにも努めていきます。</li> </ul>

# 平成 30 年度 佐世保市吉井地域包括支援センター 活動報告書

## 【重点項目の取り組み内容Ⅰ】

➤ 『住民主体の介護予防の通いの場の立ち上げ支援や継続支援を行い介護予防活動を充実させる』  
表 1.

各町	高齢者数	高齢化率	介護保険認定率	通いの場数	参加者数	(目標値) <sup>a)</sup>
吉井町	1,701	31.4%	21.3%	3	47	(7団体; 170人)
世知原町	1,431	43.4%	28.0%	4	68	(6団体; 143人)
江迎町	1,915	35.7%	21.3%	14*	295*	(8団体; 191人)
鹿町町	1,740	38.0%	21.9%	9*	183*	(7団体; 174人)
合計	6,787	36.4%	22.9%	30*	593	(28団体; 678人)

a) 高齢者250人に1団体、高齢者の人数の10%を参加目標 (2025年を目途) \* 目標達成

## 【実施】

1. 民生委員定例会や健康教育等に「通いの場の紹介」と「地域包括ケアシステム概要」の説明を実施した。第2層生活支援コーディネーター (SC) やけんこう運動支援隊と協働して「いきいき百歳体操」を取り入れた新たな通いの場の立ち上げ支援を各町で行った。

2. 健康教育 15 回・介護予防講話等 20 回以上実施し、フレイルチェック (J-CHS) や栄養チェック (MNA-SF) を行った。低栄養の予防のために「10 食品群チェックシート」(DVS; 図 1) を活用し、栄養改善の意識付けを行った。フレイルや栄養状況等はベースラインの把握を行った。

3. 一般介護予防事業評価として、「いきいき百歳体操」「嚥下体操」で身体機能や口腔機能が向上したかどうかを分析した。また新規介護保険認定リスクを統計的に推定した。

## 【結果】

1. 「いきいき百歳体操」を取り入れた通いの場は、平成 31 年 3 月には、30 団体 (593 人) (1 年間で 11 団体の増加) となり、2025 年までの目標団体数に到達 (超過) した。参加人数も高齢者数の 8.7% と目標に到達しつつある。(表 1)

2. フレイル予防の必要性や多様な栄養摂取の必要性を理解してもらったが、ほとんどの地域在住高齢者が各栄養領域で「栄養摂取不足」であることがわかり、フレイルの人に低栄養が多いこともわかった。(図 2, 図 3)

図 1.



図 2. 10食品群の各領域ごとの充足割合 (n=155)

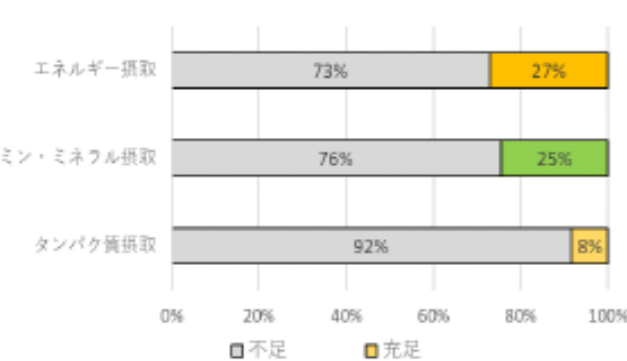
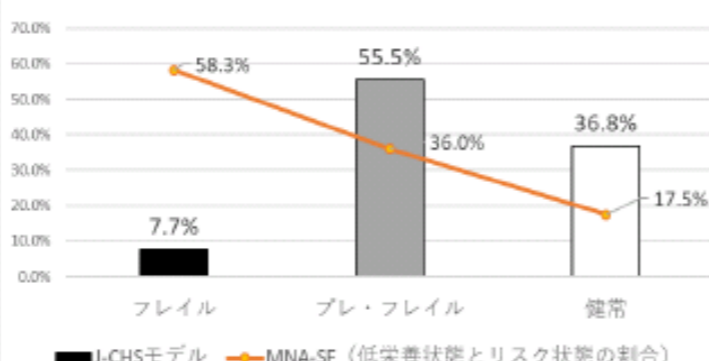


図 3. J-CHSモデルのフレイルと栄養状態の関連 (n=155)

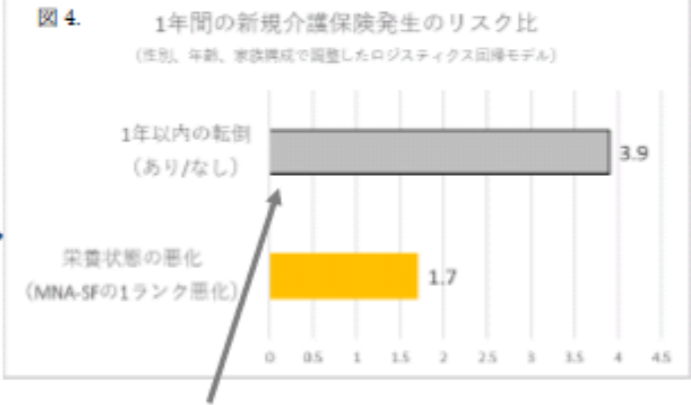


3. 一般介護予防事業評価の結果、「いきいき百歳体操」「嚥下体操」を実施することで身体機能や嚥下機能が改善した (表 2)。また、通いの場における 1 年間の新規介護保険認定率は 11.3% であり、そのリスク因子が「転倒」と「栄養状態の悪化」であることがわかった。(図 4)

表 2.

運動機能	「いきいき百歳体操」と「嚥下体操」の効果		p値	
	初回 平均値	3か月後 平均値		
5回椅子立ち上がりテスト	8.4	7.7	0.002 *	
開眼片足立ち時間 (右上げ)	20.0	23.5	0.016 *	
開眼片足立ち時間 (左上げ)	24.5	25.8	0.378	
TUGテスト	7.4	6.9	<0.001 **	
口腔機能		%	%	
噛むのが困難となった (はい)		17.7	12.9	0.180
ムセがありますか (はい)		26.6	16.9	0.023 *
口腔乾燥が気になるか (はい)		24.2	22.6	0.824

\*効果あり (運動機能は対応のある t 検定、口腔機能はマクネマー検定)



なお、受信者動作特性曲線 (ROC) 解析の結果、1 年以内の転倒予測の最適カットオフ値は、5 回椅子立ち上がりテスト (下肢筋力) は 11 秒以上、片足立ち時間 (バランス) は右上げ 5 秒、左上げ 20 秒以下であることを突き止めた。さらに、関節疾患や骨粗鬆症 (ロコモ) の有無にかかわらず、いきいき百歳体操で下肢筋力が向上することも突き止めた。

【成果Ⅰ】地域包括ケアシステムにおける介護予防のための「通いの場」を目標数立ち上げることができた。  
【成果Ⅱ】「いきいき百歳体操」「嚥下体操」の介入効果があった。さらに地域在住高齢者の要介護発生要因として、「転倒」と「栄養状態の悪化」が主であることがわかった。今後さらに転倒予防対策を講じ、栄養摂取の必要性を啓発する必要がある。

## 【重点項目の取り組み内容Ⅱ】

➤ 『ケアマネ交流会を通して地域包括ケアシステムの構築を目指したネットワークづくりを充実させる』

## 【実施】

1. ケアマネ交流会を 6 回開催し、表 3 のテーマについて勉強会およびワールドカフェ方式でのグループワークを実施した。

## 【結果】

- 地域包括ケア推進のための在宅医療・介護連携および地域共生社会を目指す地域の理想像について多様な機関、多職種で共通認識できた。
- 小規模多機能型事業所も含めた関係機関とのネットワークが構築された。今後は医療機関や障害者相談支援事業所からの協力が得られやすい。

【成果】多職種・他業種で地域包括ケアシステム構築のために活用可能な社会資源を情報共有し、ネットワークが構築された。

## 【その他の取り組み状況】

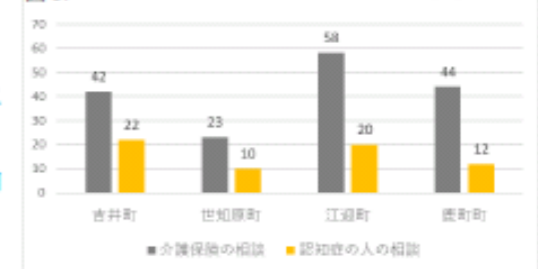
『相談受付票を通じた地域別の介護保険相談・認知症の相談の把握』  
平成 30 年度にもっとも多かった相談が、「介護保険 (総合事業)」に関する相談であり、地区別に見れば、図 5 のとおりであった。さらに、認知症ありの人の相談も比較的多い (介護保険に関する相談の約 40%) ことがわかった。

表 3.

テーマ: 多職種・他業種とつながろう
第1回 「障害者相談支援事業所との連携」
第2回 「在宅医療支援の薬剤師より」
第3回 「地域にはどんな社会資源があるんだろう?」
第4回 「医療での訪問看護利用について」
第5回 「来年度から実施される地域ケア個別会議について」
第6回 「サロン活動の内容・役割について」



図 5. H30年度の介護保険と認知症の相談数 (人)



# 平成30年度 佐世保市宇久地域包括支援センター事業計画

## 1. 地域包括支援センター事業計画について

佐世保市宇久地域包括支援センターは、地域包括支援センター運営事業を実施するにあたり、市が示す仕様書、事業実施マニュアル、運営方針を遵守するとともに、本事業計画の内容を踏まえ、事業を推進します。

## 2. 地域の現状と課題

担当地区	現状と課題
宇久地区	宇久圏域では27地区の小部落で出来ているが、空家も多くなり若年層の流出で半分以上が高齢者となっている。平港中心に商業施設、病院、学校、警察、消防署、行政センター・保健センター、福祉施設・福祉事業所等主要な機関が集中している。港から離れた地域から通院や行政センターの利用をするためには、居住している近隣の方の支援や限られた公共バスの利用しかないため、要支援者を対象にした外出支援サービスや社協利用者対象の福祉有償サービスで支援を行っている。民生委員児童委員定例会には参加をしており、老人会には研修等で連携を取っている。新上五島警察とは協定を結び高齢者の見守りと情報共有ができています。その他関係機関とも顔の見える関係が出来ているが、次世代の担い手不足や不足する社会資源をどのように工夫して補っていくかが今後続く課題となっている。

## 3. 独自の取り組み事項

	業務	取組み内容
包 括 的 支 援 事 業	介護予防 ケアマネジメント	<p>地域の高齢者が、要介護状態となることを予防するとともに、心身の状況、環境や地域の実情に応じて多様なサービスや地域資源・地縁関係等、多核な視点を持って、高齢者それぞれにあった自立した支援をめざし、住み慣れた地域で暮らしを続けられるよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握訪問を実施、自立支援に視点に目を向けた適切なサービスの検討</li> <li>・地域内事業者及び社協との連携し、住民主体の通いの場への支援推進</li> <li>・社会資源の把握・活用</li> <li>・ニュースポーツ交流会の開催による集まりの場活動継続を推進</li> <li>・高齢者の社会参加やボランティアの育成による介護予防の推進</li> </ul>
	包括的継続的 ケアマネジメント	<p>地域の高齢者がその人らしく住み慣れた地域で暮らせるよう、生活の課題に応じた社会資源の活用や介護事業者・医療機関・地域等、多職種相互の協働体制や連携を図り、個々の高齢者の状況や変化に応じた包括的・継続的なケアマネジメントの支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の保険・医療・福祉サービスが連携できる環境づくり</li> <li>・町内会や商店街等の有効な社会資源との連携や情報収集</li> <li>・困難事例等の同行訪問、指導、助言</li> <li>・個別のケース会議を通して地域課題を見つける。地域ケア会議の開催</li> <li>・認知症疾患センターや認知症地域支援推進員との連携</li> </ul>
	認知症対応	<p>島外だけではなく島内においても認知高齢者の見守りネットワークが不可欠になっている。認知症になっても自宅や地域で安心して生活ができるよう関係機関と連携していく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症地域支援員や医療疾患センターと連携を図り、認知症高齢者の予防や課題解決のための支援を検討し地域課題として関係機関と連携し支援していく</li> <li>・専門職だけではなく地域の方を含め、認知症の勉強会やサポーター養成講座を開催し認知症に関する対応等の情報の提供をしていく</li> <li>・佐世保市認知症高齢者見守り登録を基礎に宇久独自の認知症高齢者見守り対応策を検討</li> <li>・気軽に立ち寄れる地域コミュニティサロン(ふれあい喫茶)を作る</li> </ul>



# 平成30年度 佐世保市宇久地域包括支援センター活動報告書

## 重点項目への取組み内容

### 1、【介護予防ケアマネジメントへの取組み】

◇ H30年度自主活動グループ立ち上げ支援…6ヶ所（圏域内総数 13ヶ所）

◇健康教育 年5回 ◇健康講話 年12回  
宇久保健福祉センターの小地区ごとの運動教室開催時に健康教育や健康講話の時間を頂き、広く地域の高齢者に介護予防の啓発活動が出来た。

◇ニュースポーツ交流会  
自主活動グループの交流会として、宇久地区福祉推進協議会・社会福祉協議会宇久支所・宇久保健福祉センター・宇久地域包括支援センターの協働事業として実施をし、自主活動グループ97名の参加があった。いきいき百歳体操や風船バレー大会で盛り上がり、社会福祉協議会の遊具の紹介もあり参加者は交流会を楽しまれた。

◇長寿社会課理学療法士(PT)による指導(ステップアップ指導)2回開催  
長寿社会課より保健師と理学療法士が宇久地域の自主グループの指導や、個別の相談のある方には自宅まで出向き理学療法士より指導を受けた。

【ステップアップ指導の様子】



PTよりいきいき百歳体操の留意点を指導していただきました。

自主活動グループ指導の様子



◇自主活動グループの工夫



得意分野をいかして  
手作りおもり



自主活動グループで補助金の利用のない所もたくさんあります。それぞれが自分たちで錘を作ったりして、活動につなげています。着物や帯でおもりカバーを作り、錘自体は、砂・小石・鉄を切って使っています。または、ペットボトルを錘代わりに使っているところもあります。

### 2、【包括的・継続的ケアマネジメントへの取組み】

◇地域ケア個別会議…H30年度 5回開催 1回2ケース(計10ケース)  
長寿社会課の主導により個別のケースを、専門職の理学療法士、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員等の助言を頂き、プランに対しての検討を重ねた。はじめは、戸惑いも見られたが回を重ねるうちに、アセスメントの重要性や高齢者の自立支援に何が必要かという具体的な課題にも着眼するようになり、介護支援専門員への支援ができた。

H31年度からは、包括が主体となり地域ケア個別会議を開催するが、宇久では専門職として診療所の医師及び看護師、歯科医師または歯科衛生士、宇久保健福祉センターの理学療法士と管理栄養士、認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーターを助言者として実施する。

◇地域ケア会議…H30年度 1回開催  
H30年度の地域ケア会議(地域ケア包括会議)では生活支援コーディネーターが7月より配置されたため、協働での実施。二部制で行い第1部を地域ケア会議とし第2部を生活支援体制整備事業出前講座として開催した。地域の住民を対象とした地域ケア会議で35名の参加となった。地域ケア会議では、総合事業といきいき百歳体操の紹介をした。

- ・介護予防・日常生活支援総合事業についての説明。
- ・地域の活動、きらっと元気教室の紹介やサービス利用中や利用後の流れの説明。
- ・いきいき百歳体操団体の紹介では、おもりを手作りしている団体の写真や動画で活動を始めたきっかけ・参加数・必要物品をどのように準備したか、参加数・必要物品をどのように準備したか、活動の内容と今後のやり方など、活動グループの生の声を聞いていただいた。
- ・自分たちが歩いて参加できる活動の場の推進を説明。

#### 【アンケート結果】

- ・活動があることは知っていても活動の様子を知らない方があったが、活動団体の工夫や動画の紹介で良く分かった。
- ・一人でも参加者が増えるように呼びかけたい。
- ・自分たちがやっていたいかなければという意識付けになった。

※参加者の中で百歳体操の支援をしても良いと回答してくれた方  
男性 2名 女性7名(計9名)



### 3、【その他の取組み状況】

◇新上五島警察との連携  
新上五島警察の防犯PRのため宇久で開催されているニュースポーツ交流会、サロン活動等に参加された。また、新上五島警察交通マナー向上研修を実施され、宇久地域包括支援センターも連携した。

◇宇久地区民児協の民生委員との連携  
宇久地区の民生委員・児童委員と定例会以外に小地区別に「出張困りごと相談会」を行った。8地区 相談人数 女性 46名 男性 6名(計52名)  
相談内容としては、独居高齢者・障がい者を抱える高齢者・地域の空き家対策・災害時の対策など、近隣の相談から地区の相談まで、幅広い相談が出ている。個別対応は包括が訪問で対応し、地域については民生委員と地域の困りごととして情報共有している。

◇ふれあい喫茶なないろの立ち上げ支援  
宇久地域では障がい者のデイケアを年9回保健福祉センターで開催されているが、障がい者の活動の広がりを図るため10月より障がい者の集まりの場として、ふれあい喫茶なないろを民家を活用して週1回金曜日に定期的に開催している。庭に野菜を植えたり、創作をしたりと活発な活動となっている。今後は、ほかの曜日を利用し高齢者の集まりの場へと展開していく。

◇認知症地域支援推進員との連携  
宇久地域の高齢化が進むとともに認知症の相談も増加しており、H30年度より認知症地域支援推進員が配置された。地域から相談があった時に包括職員と一緒に動けるため、活動の幅が広がっている。

- ・認知症中央疾患センターとの連携:3回
- ・認知症ネットワーク会議への参加:3回
- ・認知症検討会への参加:2回 その他の研修会:3回
- ・認知症介護家族の会への参加:9回
- ・地域ケア会議への参加:2回
- ・関係者会議への参加:14回
- ・相談支援数:12人(延べ21人) 家庭訪問:19人(延べ91人)

◇高齢者のための権利擁護

- ・各地区運動教室での講話(高齢者虐待防止・日常生活自立支援事業について):11回
- ・広報誌 うく包括便りの発行により特殊詐欺防止への注意喚起や情報提供
- ・個別訪問による遺言、相続、成年後見制度の情報提供